

2021年2月25日（木曜）

全労金2021春季生活闘争ニュース・第4号

【全労金2021春季生活闘争統一スローガン】
今こそ全国の仲間と思いをひとつに！心は密に団結を！

全労金2021春季生活闘争にかける 単組闘争委員長の決意をみんなで共有しよう！

全労金2021春季生活闘争は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、要求する課題については、全労金が示す要求課題から、単組が2021春季生活闘争で改善をめざす課題を選択して要求することとしています。しかし、要求する内容は単組によって異なっていたとしても、全労金2021春季生活闘争は、全単組で同じ思いを持って闘う「統一闘争」として進めていきます。

そこで、今号並びに次号では、新型コロナウイルス感染症による厳しい環境の中でも力強く単組を率いる、14名の単組闘争委員長のみなさんから、全国それぞれの場所で闘う仲間へのメッセージとして「全労金2021春季生活闘争にかける決意表明」をいただきましたので紹介します。「フィジカルディスタンス（物理的な距離）」は離れていても、労金労組組合員の思いはひとつに、心は密に団結しましょう！

◎北海道労組・奥井郁夫闘争委員長の決意

今年で、東日本大震災から10年が経ちます。当時、全14単組は、即時に闘争体制を解除し、2011春季生活闘争を終結したことを今でも鮮明に覚えています。震災当時、組合員とその家族を必死で守ろうと奮闘する東北労組役員・全国の仲間と心を打たれたのが、今まで組合役員を続けることができた大きな理由です。失礼しました、話が違いました。

現在、私たちは、頻発する自然災害に加え、1年以上、目に見えないウイルスと不安の中で闘い続けています。このような状況下における「2021春季生活闘争」は、今までに経験のない闘いを進めることとなります。本来、労働組合は顔と膝を突き合わせ、対面による活動が基本となりますが、当たり前の日常が送ることができない状況の中、真の意味で「共闘体制」を構築することは、至難の業です。

しかし、どのような難局においても決して弱音を吐かず、北海道労組は、全労金に集う全国の仲間と一丸となり乗り越えます。「2021春季生活闘争」が組合員の生命と健康を最優先に、ろうきんの未来に資する闘いであることを心に刻み、最後まで闘い抜くことを決意します。ともに頑張りましょう！



◎東北労組・綿祐次郎闘争委員長の決意

東北労組では、全労金2021春季生活闘争方針に基づき、全国の仲間と共に闘い抜くために、春闘方針確立に向けた職場との往復議論を例年よりも増やし、丁寧に進めてきました。そして、厳しい状況の中でも何としても勝ち取るべき要求項目、イレギュラーな環境の中で一体感を持って闘うための取り組みについて全組合員の総意で確立しました。

この1年余り、感染症対策に緊張しながらの生活・仕事・組合活動の中では、直接的な表現がある時だけに限らず、組合員の不安を多くの場面で感じてきました。今こそ、お互いの思いを意識的に確認し合い、春闘を通して一つになり、組合活動の原点である「助け合い・支え合い・思いやり」を胸に最後まで闘い抜きましょう！

そして、闘争期間中の3月11日に東日本大震災から10年目の節目を迎えます。この間の全国の仲間からの暖かいご支援に心から感謝申し上げ、「自然災害に関わる取り組み」「震災を風化させない取り組み」の中で役割を果たしていきたいと思えます。共に頑張りましょう！



◎中央労組・源波信亮中央闘争委員長の決意

これまで、新型コロナウイルス感染症に対する不安を抱えながらも、社会インフラを支える金融機関の職員として、また、労働者自主福祉運動をすすめる運動家として、社会的役割を果たす使命感から、日々奮闘している全国の組合員の皆様に対し敬意を表します。

2021春季生活闘争は、例年以上に全国の仲間が同じ思いを持って闘うことが重要です。何よりも、組合員の「命と健康」を最優先とし、真のやりがい・働きがいを勝ち取るため、それぞれの単組が掲げた要求に自信とプライドを持ち、統一闘争を展開していきましょう。

中央労組では、「良好な職場風土の構築」を軸に、コロナ禍での組合員の奮闘に対し、一時金の上乗せ要求を掲げました。厳しい環境だからこそ、組合員のモチベーション向上のため「人への投資」を実践する時です。全組合員の総意を持って確立した要求項目に拘りを持ち、最後まで全国の仲間とともに闘い抜くことを誓います。ともに頑張りましょう。



◎新潟労組・川上敦之闘争委員長の決意

新潟労組では、2月13日に開催した2020年度第2回中央委員会において、2021春季生活闘争方針を確立しました。2021春闘は、新型コロナウイルス感染症禍の中で闘う例年になく異例な春闘となります。各職場では、性差にかかわらず、年齢にかかわらず、そして契約形態にかかわらず、金庫で働くすべての職員・組合員が、感染防止対策を徹底しながら全力で職場を守り、勤労者支援をはじめとした労働金庫の役割発揮に力を傾けています。労組執行部は、一つひとつの要求項目について多くの仲間たちと長い時間をかけて真剣に議論し、作り上げてきました。その多くの組合員の期待に応えるべく、全力で2021春季生活闘争を形にします。そして、全組合員の思いが詰まった全ての要求に対して、金庫に誠実な回答を求めます。最後に、新潟労組は全労金に集う全国の仲間と同じ思いのもと2021春闘を最後まで闘い抜き、全ての要求項目を勝ち取ることを決意しています。共にがんばりましょう。



◎長野労組・大澤真也闘争委員長の決意

今春季生活闘争は、方針作成前からコロナ禍という異例な事態です。

しかし次年度の賃金等諸労働条件を決定する重要な闘いであることには変わりありません。

私たちは、次年度も金庫を取り巻く環境が新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たないことも含め厳しい状況下にあることを十分に理解した上で確信をもって方針を確立しました。

大切な事は、全組合員の総意で掲げた要求に対してこだわりを持つことです。

そのためには、要求の背景や主旨・交渉の経過を全組合員で共有することが重要であり、各自が今まで以上に当事者意識を強く持つ必要があります。

闘争委員会、組合員の思いと期待を真摯に受け止め交渉に対する負託に応え、全要求の獲得に向けて不退転の決意で臨みます。

全労金組織 9,000名が労働組合の旗の下に結集し、要求に対して自信と誇りを持って、闘おう！全国の仲間と共に最後まで闘い抜くことをここに誓い決意表明とします。共に頑張りましょう！



◎静岡労組・岡隼也闘争委員長の決意

この1年、私たちの生活や働き方には大きな変化が訪れ、戸惑いや不安を抱えながら過ごすこともあったでしょう。しかし、集うことに制約を受けながらも、私たちは新たな知識や方法を学び、仲間と協力し、変化に対応してきました。その営みの中で、業務においては、はたらく人とその家族の悩みに真摯に向き合い、また、労組活動においては、互いの不安に寄り添い、活動を続けてきました。

このような中で迎える2021春季生活闘争は、「新型コロナウイルス感染症の防止対策を含め、生命と健康を優先して取り組みを展開する」ことを前提としながら、組織の過去・現在・未来、そして、人をどう活かすかについて、労使で対話を重ねる必要があると考えます。その上で、静岡労金労組として「基本賃金の改善」と「年間一時金」の要求獲得にむけ、「感染症対策」と「要求に対するこだわり」を両立し、闘っていくことを誓います。ともにがんばりましょう。



◎北陸労組・幸田愛子闘争委員長の決意

北陸労組では、2月18日に開催した第3回中央委員会において、「年間一時金」、「雇用に関する環境整備」の2つの要求に絞った2021春季生活闘争方針を全会一致で確立しました。金庫を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響をはじめとして一段と厳しさを増している状況の中ではあるものの、日々職場で奮闘している組合員の労苦に報いるべく、年収水準の維持・向上を図ることを最優先とし、原資を伴う要求については一時金に絞った要求を掲げています。

2021春季生活闘争では、昨年以上に厳しい闘いが想定されますが、要求を勝ち取るために闘い抜く姿勢は、単組のみならず、全労金に集う仲間の励みや力になります。全労金組織が丸となって、難局を乗り越え、労金業態で働く全ての仲間の組織風土改革に繋がるよう粘り強く闘い抜きましょう！



以上